

大阪大規模都市水害対策検討会 第2回検討会議事録

- 日 時：平成28年8月3日（水）10:00～12:00
- 場 所：大阪地方合同庁舎1号館 新館3階 A会議室
- 出席者：別添のとおり
- 議事概要・中間とりまとめの報告

■開会（近畿地方整備局 企画部長）

レベル2（最大規模）の水害の全てをハードで守るのは、経済性からしても非現実的なことからソフト対策中心に「命をどうやって守るか」、「社会経済活動への影響を最小限にするか」というところ検討していく。

■議事内容

議事1. 規約改正（オブザーバー、アドバイザー）について

（概要）事務局から以下のアドバイザーやオブザーバーに加える規約改正を提案し承認。

アドバイザー：関西大学 社会安全研究センター長・教授 河田教授

（人と防災未来センター センター長）

オブザーバー：陸上自衛隊第三師団、阪神電気鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社
近畿統括本部、西日本電信電話株式会社、NTTドコモ関西支社

議事2. これまでの経緯について

（概要）第1回検討会議事録とこれまでの経緯を説明し承認された。

議事3. ガイドライン（案）中間とりまとめについて

（概要）事務局から『大阪大規模都市水害対策ガイドライン（案）中間とりまとめ』について報告し、以下のとおり議論を行った。

[委員] 浸水想定および排水解析結果を見ると、梅田や難波の地下街は最後まで浸水しているが、地下空間の排水解析を今後検討するのか。

[事務局] 対象範囲、規模を含めて関係者と話し合っただけです。

[委員] 最悪の状況を想定し、地下街の浸水解析について、一つのシナリオとして左岸9.2kを破堤したケースでシミュレーションを実施しているが、ガイドラインを一般の方が見た際に「左岸9.2k以外は破堤しない」と思い込む可能性がある。

[アドバイザー] 左岸9.2kを想定破堤点としているが、阪急神戸線は更に低い。天神橋筋六

丁目駅よりも中津駅周辺で破堤する方が確率が高いのではないかと。地下空間への入口が多い箇所から破堤する方が被害は大きいため、状況設定のレベルで、ある程度、最悪の状況を想定してほしい。

[事務局]破堤点は、9.2k 以外に右岸側や中津駅周辺も検討します。

[アドバイザー]ネットワークの条件は、ブレーカーが落ちることになっているが、仮に夜中に洪水が発生した場合などは、誰も落とすことができない場合も想定される。最悪の状態を想定し、被害の度合いに幅を持たせて推定すべき。

[委員] 被害の推定は過去の実績から行っており、被害がこれ以上出ないということではない。幅を持たせたり、注釈を加える等して、「これだけの被害しか起こらない。」という誤ったメッセージを与えないようにしたい。

[アドバイザー]定量的な評価が困難であっても、定性的に、最悪の状態を想定して評価していく必要がある。今は、この検討で良いが、それを標準にしてしまうとそれ以外おこらないとなってしまう。検討のお金時間があれば被害の幅を持たせた検討をしていただきたい。

[委員] 最悪の状態を想定することも大切だが、過酷事象だけを扱っていると、ハードを何もしなくて良いということになりかねない。災害のシナリオには膨大なケースがあるということを、共通認識としてもっておき、各管理者が進めていく色々な対策の効果を併せて見せて行かないと浸水対策は進まない。

[事務局]指摘を踏まえて以下のシミュレーションの実施を検討します。

最大規模の洪水については、流量は有限であるため、1 箇所の破堤条件での検討とし、他の地点が破堤した場合についての検討をします。

実際は暴風雨により窓ガラスが割れる、屋根瓦が飛ぶ等の被害も想定されるため、定性的及び定量的に被害の幅についても検討します。

議事 4. 今後の予定について

(概要)事務局から今後の予定について説明し、方向性について報告。

[委員] タイムラインは、基本的には、ここにいるメンバーの行動計画をベースに作成するという理解。住民の避難行動も重要な要素のため、まずは人命を守ることが最優先であるというメッセージ性をタイムラインに加えてほしい。

[アドバイザー]洪水氾濫において、大阪府の各市も同様の検討を進めていかなければならない。

[委員] すぐできるかどうかは別にして、全体像も示しながら、まずは、一つのシナリオで検討し、一歩ずつ進めてほしい。